

2 研究の実際

(3) 活動プログラム実践前後の実態調査と児童生徒の意識の変容についての考察

活動プログラムの有効性を探るに当たり、小・中学校の児童生徒を対象に、インターネット上のソーシャルスキル・トレーニングの活動プログラムを実施する前(7月)と、実施した後(10月)に、2研究の実際(2)ア(1)で示した「行動を振り返るアンケート」と「インターネット上の行動を振り返るアンケート」の両方を同時に行い、授業前後のソーシャルスキルに対する意識の変容を見ました。

分析に当たり、H22・23年度の研究で用いた「行動を振り返るアンケート」を基にした6つの基本スキル(「自己紹介」「あたたかい言葉かけ」「気持ちをわかって働きかける」「上手な断り方」「自分を大切にする」「トラブルの解決策を考える」)に対する意識の変容について、対面とインターネット上のそれぞれを集計しました(「相手の顔を見て、嬉しそうにしているのか、悲しそうにしているのか考えていますか」「インターネット上のやり取りで、相手の内容を読んで、嬉しそうにしているのか、悲しそうにしているのか考えていますか」については、2つの基本スキルに共通する質問になります)(図1)。

行動を振り返るアンケート		
基本スキル	対 面	インターネット上
自己紹介	相手に自分のこと(好きなことや得意なことなど)や考えを伝えていますか	インターネット上のやり取りで、自分のこと(好きなことや得意なことなど)や考えを伝えていますか
	相手の顔を見て、自分のこと(好きなことや得意なことなど)や考えを伝えていますか	インターネット上のやり取りで、相手からの内容を最後までよく読んでから、自分のことや考えを伝えていますか
	相手に聞こえる声で、自分のことや考えを伝えていますか	インターネット上のやり取りで、相手に分かりやすい文章になっているか読み直して伝えていますか
あたたかい言葉かけ	相手に「すごいね」「がんばってね」などと、ほめたりはげましたりする言葉をかけていますか	インターネット上のやり取りで、相手に「すごいね」「がんばってね」などと、ほめたりはげましたりする言葉を伝えていますか
	悲しそうにしている相手に、「どうしたの」などと、心配する言葉をかけていますか	インターネット上のやり取りで、相手に、「どうしたの」などと、心配する言葉を伝えていますか
気持ちをわかって働きかける	相手の顔を見て、嬉しそうにしているのか、悲しそうにしているのか考えていますか	インターネット上のやり取りで、相手からの内容を読んで、嬉しそうにしているのか、悲しそうにしているのか考えていますか
	相手の気持ちを考えて、一緒に喜んだり、悲しんだりしていますか	インターネット上のやり取りで、相手の気持ちを考えて、一緒に喜んだり、悲しんだりしていますか
	相手が困っているとき、その人のために、何かしていますか	インターネット上のやり取りで、相手が困っているとき、その人のために、何かしていますか
上手な断り方	頼まれたことや誘いを断るとき、「ごめんね」などと、謝っていますか	インターネット上のやり取りで、頼まれたことや誘いを断るとき、「ごめんね」などと、謝っていますか
	頼まれたことや誘いを断るとき、理由を言って断っていますか	インターネット上のやり取りで、頼まれたことや誘いを断るとき、理由を伝えて断っていますか
	頼まれたことや誘いを断るとき、代わりにできることを相手に伝えていますか	インターネット上のやり取りで、頼まれたことや誘いを断るとき、代わりにできることを相手に伝えていますか
自分を大切に	相手と違う意見でも自分の考えを伝えていますか	インターネット上のやり取りで、相手と違う意見でも自分の考えを伝えていますか
	正しくないことや嫌なことを頼まれたとき(誘われたとき)「いやだ」「やめて」などと言っていますか	インターネット上のやり取りで、正しくないことや嫌なことを頼まれたとき(誘われたとき)「いやだ」「やめて」などと伝えていますか
	カッとしたりイライラしたりするとき、自分の気持ちを落ち着かせていますか	インターネット上のやり取りで、相手から送られた内容を読んで、カッとしたりイライラしたりするとき、自分の気持ちを落ち着かせていますか
トラブルの解決策を考える	けんかやルールを守らないことなどもめたとき、なぜそうなったのか原因を考えていますか	インターネット上のやり取りでもめたとき、なぜそうなったのが原因を考えていますか
	けんかやルールを守らないことなどもめたとき、解決するための方法を、いくつか考えていますか	インターネット上のやり取りでもめたとき、解決するための方法を、いくつか考えていますか
	けんかやルールを守らないことなどもめたとき、自分にできる解決するための方法を決めていますか	インターネット上のやり取りでもめたとき、自分にできる解決するための方法を決めていますか

図1 アンケート項目一覧

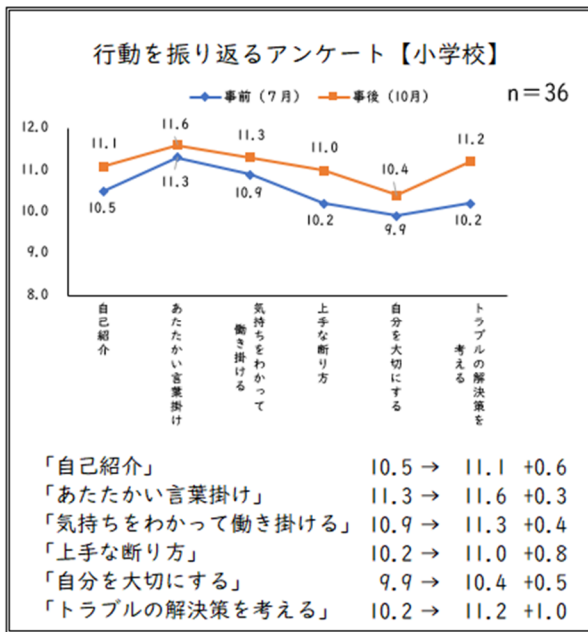


図2 アンケート結果 (小学校対面)

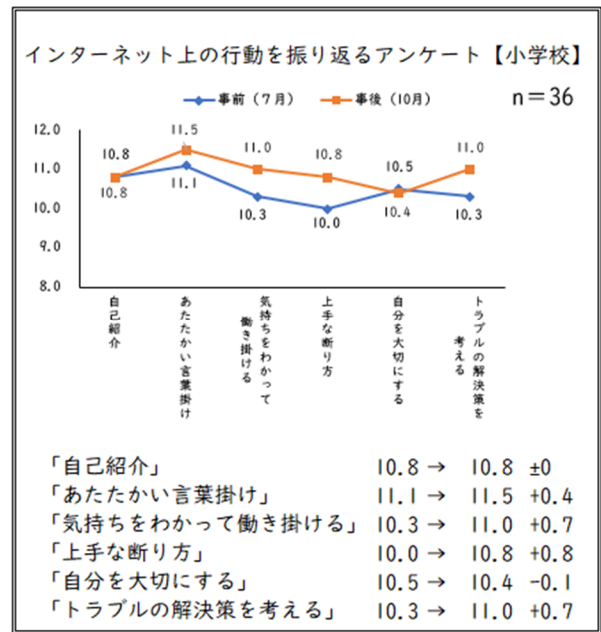


図3 アンケート結果 (小学校インターネット上)

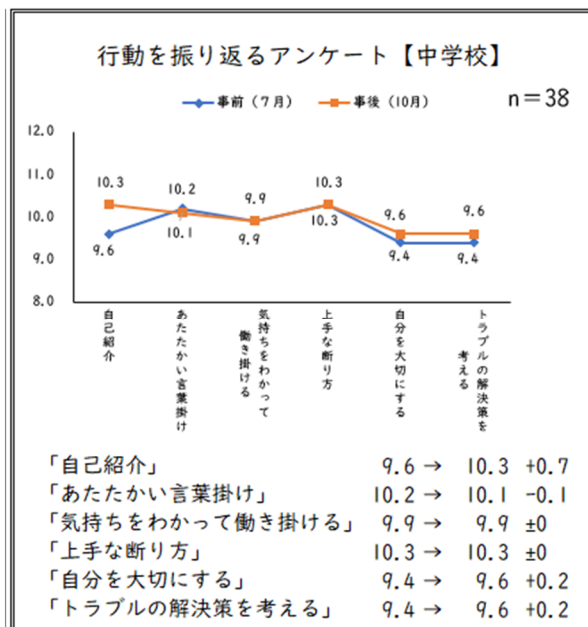


図4 アンケート結果 (中学校対面)

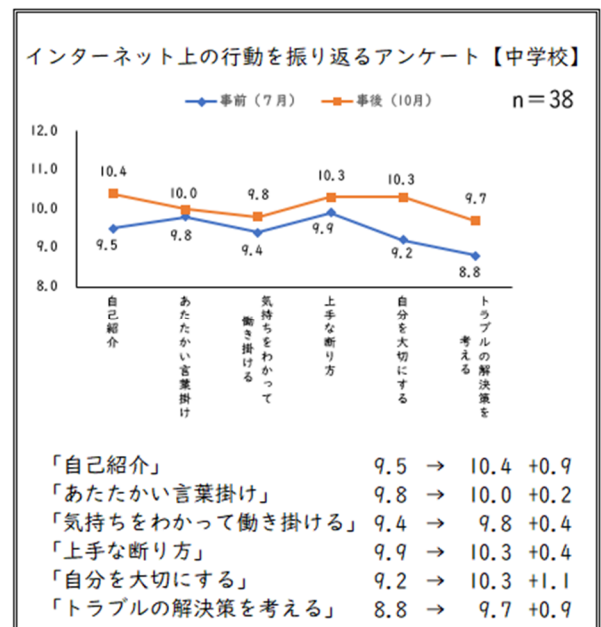


図5 アンケート結果 (中学校インターネット上)

《考察》

インターネット上の行動を振り返るアンケートの事前と事後を比較すると、6つの基本スキルのうち小学校においては4項目、中学校においては全ての項目で数値が上がり、小・中学校共に、活動プログラムの有効性を確認することができました。特に、中学校におけるインターネット上の行動を振り返るアンケート(図5)では、「自分を大切にする」の数値が1.1ポイント、「トラブルの解決策を考える」の数値が0.9ポイント上がっていることから、小学生に比べ、インターネット上のトラブルに遭遇しやすい中学生の方が活動プログラムに取り組む意識が高かったことが考えられます。

小学校においては、インターネット上でのソーシャルスキル・トレーニングを行ったことで、対面での行動を振り返るアンケート(図2)についても全ての観点で数値が上がっています。そのため、この活動プログラムを小学校で取り組むことで、対面でのソーシャルスキルの向上にもつながることが考え

られます。

一方、小学校のインターネット上の行動を振り返るアンケート（図3）において、「自己紹介」が±0ポイントと増減がなく、「自分を大切にする」が0.1ポイント下がりました。この活動プログラムを実践した学級では、26%の児童がインターネット上のコミュニケーションを行っておらず、インターネット上のコミュニケーションツールの使用に慣れていなかったために、この活動プログラムの中で、相手への配慮や自分の考えをはっきり伝えることまでは考えることができなかったと予想されます。そのため、実態調査を十分に行うことで児童一人一人のインターネット上のコミュニケーションに対する意識を把握し、個に応じた支援を取り入れながら活動プログラムを実施するなどの手立てが考えられます。また、児童の状況や発達の段階に応じて、インターネット上のソーシャルスキルだけでなく、対面のソーシャルスキルについてもバランスよく学んでいくことが大切です。